

## 第9回 市長と話そう会（武雄フェイスブック交流会）

日 時 平成29年9月29日（金）

19:30～21:10

場 所 コーヒーショップ喜蔵

参加者 武雄フェイスブック交流会13名



市民の皆様と市長が直接語り合う「市長と話そう会」第9回目は、武雄フェイスブック交流会の皆さんとの意見交換でした。まず、市長から市政について話し、その後、多数の意見をいただきました。内容を抜粋して掲載しております。

《掲載に当たり、一部個人のプライバシーに関する部分等については省略しております。》

### 1 市長より

#### (1) こども図書館について

- ・建設のきっかけは、ある家族の「家族で楽しく学べる場があればいいね」というつぶやき。
- ・本のエリアは全体の半分以上で、体験スペースを確保している。2階には食のスペースもある。本だけではなく、体験や食から学ぶ場にしたい。
- ・子どもをきっかけに多世代が交流する場にしたい。親子で楽しく学べる場にしたい。

#### (2) 武雄の子育て支援について

- ・基本的な考え方は、①「質」を上げる（いかに豊かに楽しく子育てできるか）、②裾野を広げる（貧困、不登校・引きこもり、障がい児等の弱者の支援）。
- ・根底には、どんな境遇であっても未来を背負う子どもたちが未来に希望を描けるようにしたいというヒューマニズムの部分と、子どもが減っていく中で武雄の将来を担う人材を育てるとい自治体経営の持続可能性に根差す部分がある。
- ・将来の人材に投資をするには財源が必要で、市内の経済を上げる必要がある。

#### (3) 5年後の武雄市について

- ・九州新幹線西九州ルートの開通は、「経済」にとってチャンスと捉えている。長崎と佐世保の分岐点になることから、「西九州のハブ都市」を目指す。
- ・新幹線開通により、長崎が通勤・通学圏内になる。子どもたちがこの街に住み続けたいという取り組みを愚直に行っていくことで、長崎への通勤・通学につながるのではないか。武雄に住みながら長崎・諫早・大村に通う環境を整えることで、20代の人口減少を食い止めたい。
- ・武雄を基点に、レンタカーや観光バスで佐世保・長崎・伊万里・有田等を観光し、武雄で宿泊してもらおう「観光ハブ都市」を目指す。武雄で宿泊してもらおうため、夜の楽しみ（ナイトエコノミー）を充実させたい。武雄を観光ハブ都市にすることで、外から観光客を呼び込み、観光消費を通じて市民所得を引き上げ、増えた税収で福

社に使える財源を確保するという方向に持っていきたい。

**(4) 多様な人が交流する武雄の明日について**

- ・様々な境遇にある人を受け入れる空気を作っていきたい。

**(5) 武雄フェイスブック交流会の今後の活動への期待について**

- ・市が行っていることは、市のホームページで発信している。市内で行われている行政及び民間の取り組みを網羅したツールがあればありがたい。

**2 質疑応答**

(参加者)

武雄の未来はどうなっていくのか

(市長)

- ・「どんな立場になっても、この街であれば生きていける」そういう街にしていきたい。「安全・安心」は、防災だけではない。地域の皆さんのつながりを活かしていきたい。
- ・温泉通りで、今年4月に「さくら市」、9月に「大人たちの夜会」が行われ、自分たちの力で街を盛り上げていこうという気運が生まれてきたのはすごく良い。ノウハウが次につながっていく。行政主体では長続きしない。

(参加者)

東川登町の今後について

(市長)

- ・新たな工業団地を造成して、雇用を町に生み出したい。地元企業を誘致して職住近接を目指す。
- ・東川登町に住んでいる人が、どんな町にしたいのかが大事。市内9町が、それぞれのカラーを出したまちづくりに取り組んでいただきたい。

(参加者)

スポーツの活性化について

(市長)

- ・平成35年（2023年）の国体に向けて、スポーツに関心を持っていきたい。これまでのつながりを活かして実業団チームに合宿で来てもらい、子どもたちに本物のプレーを見てもらう機会を作りたいと考えている。スポーツと健康をつなげて何かできないかとも考えている。アイデアがあったら教えてほしい。白岩運動公園については、プロジェクトチームを作って、今後のあり方を考えていく。

(参加者)

観光の連携について、オルレコースを設けている地域同士（嬉野、唐津）で連携した方が、宿泊にもつながるのではないかな。

(市長)

- ・これからの時代、武雄だけで捉えるのではなく、近隣市町と連携していくことが有効。武雄温泉駅に近隣市町のパンフレットを置いてもいいのではないかな。